

令和 4 年度 住之江区運営方針 《振返り》



令和4年度 住之江区運営方針

(区長:末村 祐子)

◆計画

区の目標（何をめざすのか）

- ・子どもから高齢者まで、住之江区で暮らし、学び、働くすべての人が、自分の将来に夢と希望を持って、地域など、周りの人々と幸せに暮らすことのできるまちをめざす。
- ・住之江区の名前の由来のとおり、すみよい区、すなわち “e-SUMINOe”を「めざす将来像」とする。

区の使命（どのような役割を担うのか）

- ・地域と共に進めるまちづくり
 - ・区民意見の反映 ・地域活動協議会、NPO、企業等の交流促進 ・若い世代との協働
- ・ICTを活用した情報発信の充実
 - ・分かりやすい広報 ・多様な手法を活用した情報発信

令和4年度 区運営の基本的な考え方（区長の方針）

- ・より安心して子育てができ、未来を担う子どもたちが夢と希望を持って学ぶことができる環境づくり
- ・すべての人々が住之江区に愛着をもち、自分らしく暮らせるまちづくり
- ・自助、近助、共助、公助による備えのできた防災力の高い、安心して暮らせるまちづくり

重点的に取り組む主な経営課題（様式2）

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題1】 ・子どもたちが輝くまちづくり	・子どもたちが笑顔で育つ環境の実現 ・子どもたちの「生き抜く力」の育成
主な具体的取組（4年度予算額）	
・支援が必要な児童、生徒への取組（－円） ・全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備(10,322千円) ・児童、生徒の学力向上に向けた取組(10,022千円) ・チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり(－円)	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題2】 ・すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり	・地域の活力と魅力の向上 ・支え見守りあう地域づくり
主な具体的取組（4年度予算額）	
・多様な主体による地域の活気と魅力づくり(59,031千円) ・地域の魅力の共有と発信(4,293千円) ・安心を提供する福祉施策の推進(－円) ・地域福祉の充実(12,165千円)	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題3】 ・安全・安心なまちづくり	・災害に負けないまちづくり ・犯罪のない安心して暮らせる環境の実現
主な具体的取組（4年度予算額）	
・自助・近助・共助による防災力の向上と圧倒的多数の人材育成(5,261千円) ・減災のための環境整備(1,274千円) ・防犯意識の向上に向けた啓発(－円) ・街頭犯罪抑止のための環境整備(995千円)	

※(－円)は関係局予算及び区CM予算等による

「市政改革プラン3.1」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
次代を担う職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による改善、問題解決やあらたなチャレンジを促す仕組みの構築 ・各所属における職員の専門性の向上
主な取組項目	取組内容
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な働き方の推進 ・コミュニケーション活性化・ムダ取りのためのオフィス改革

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

子どもから高齢者まで、住之江区で暮らし、学び、働くすべての人が、自分の将来に夢と希望を持って、地域など、周りの人々と幸せに暮らすことのできるまちをめざし、取組を進めた。

「子どもたちが輝くまちづくり」をめざした取組では、子育てに関する有益かつタイムリーな情報発信を推進するとともにアンケートや訪問相談等を通して、子育て世帯の養育状況や困り事を把握し、適切な支援を提案してきた。今後もNPO法人等の関係機関と連携し、保護者等へ利用可能な支援メニューを提案し、保護者の利用に向けたサポートを行うなど、支援を要する児童等が取りこぼされることのないよう取組を進める。

「すべての人が自分らしく暮らせるまちづくり」をめざした取組では、地域活動協議会が自ら積極的な情報発信を行うための動画作成講座や地域課題の解決に向けた協働取組の活発化を図るための企業・NPO・学校・地域交流会等を開催し、会計事務説明会においても地域活動協議会の意義や準行政的機能、総意形成機能について理解を深めるための説明を行った。今後、区政会議と地域活動協議会において情報共有を行い、まちづくりセンターと連携して、地域活動協議会の取組と地域のニーズが一致するよう、支援の強化に取り組んでいく。

「安全・安心なまちづくり」をめざした取組では、防災については、中学生や防災リーダーを対象に研修や訓練を実施し、より多くの防災人材を育成した。また防災パートナー登録勧誘を積極的に行い、ペット防災に関して協会のパートナー登録を得ることが出来た。防犯については、特殊詐欺被害防止録音機の市民向け貸与や、犯罪発生箇所が反映された防犯マップを基にした即応効果的な巡回パトロールを実施し、特殊詐欺被害防止や街頭犯罪抑止に努めた。今後も広報紙、動画、SNS等様々な媒体により啓発を行い、防災・防犯意識の向上に努める。

解決すべき課題と今後の改善方向

「住之江区将来ビジョン」において、めざす将来像である「周りの人々と幸せに暮らすことができるまち」の実現に向けて、「育む」「愛しむ」「備える」の3つをテーマに、これまでに明らかになった課題の解決に向け、様々な施策を推進する。

令和4年度は引き続きコロナ禍において、「すみのえ情報局」を活用するなど、地域活動の支援を行ってきたが、多くの活動が中止・休止を余儀なくされた。今後はコロナ感染対策が見直されたことから地域活動の活性化が見込まれる。

引き続きICTを活用した情報発信など、地域活動を支援することで、より活力ある地域社会づくりに向けた取組をすすめる。

こうした「ICTを活用した地域力の強化」のほか、「官民連携の一層の強化」「より身近な区行政の実現」と合わせ、めざす将来像に向けた施策の推進を行う。

経営課題1 【子どもたちが輝くまちづくり】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・未来の担い手であるすべての子どもが、家庭や地域で愛されながら、個性豊かに、たくましく育っていくよう、区民がより安心して子育てができ、子どもたちが夢と希望を持って学ぶことのできる環境の実現をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・様々な主体が子育て支援・相談を実施しているが、十分に知られていない、または、利用されていない状況にある。

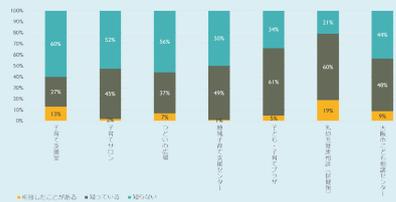
- ・全市で重大虐待ゼロに向けた取り組みを進めている。
- ・乳幼児健診受診率は90%を超えている。
- ・令和2年度に当区保健福祉センターで受けた児童相談数（新規等）は318件であり、うち虐待相談件数は126件である。そのうちの約50%がネグレクト（育児放棄・生活環境不良など）である。（R2年度福祉行政報告例より）

・全国学力・学習状況調査における本市小学生ならびに中学生の平均正答率はすべての科目において、国平均を下回っており、区においても同様の傾向がある。また、本市の小学生及び中学生は国に比べて授業以外の学習時間が少ない傾向があり、区においても同様の傾向がある。近年その傾向は変わらない。

・平成29年度大阪市「子どもの生活に関する実態調査」においては、大阪市全体と比較して、経済的な理由で子どもの学力向上に金額をかけられない家庭が多い傾向がある。

・全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問における区内小学生ならびに中学生の肯定的な回答についても、いずれも本市の小学生・中学生は国平均を下回っており、区においても同様の傾向があり、近年その傾向は変わらない。

子育て中の方の相談機関の認知度（区民モニター）



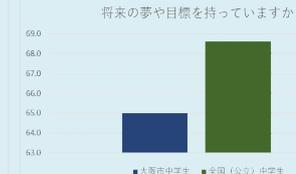
令和3年度全国学力・学習状況調査結果
学校の授業時間以外の平日の学習時間



令和3年度全国学力・学習状況調査結果
自分には、よいところがあると思いますか



令和3年度全国学力・学習状況調査結果
将来の夢や目標を持っていますか



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・経済的な状況や親のネグレクトなど、子ども本人ではなく、子どもをの置かれた家庭環境に起因して、子育てや学習に関する必要な支援や見守りが受けられていないケースが多くある。
- ・子育てを支援する公的なサービスが十分に認知されておらず、利用が低調であったり、区役所等に相談に行くことへの心理的な抵抗感から、悩みや不安、負担感が十分に解消されないまま子育てを行っている場合がある。
- ・子どもたちが将来の夢や希望といった目標を持ちにくい状況にある。加えて、自己肯定感が低いことなどから学習意欲につながらない状況にある。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【子どもが笑顔で育つ環境の実現に向けて】

- ・本人や家庭への支援が必要な児童、生徒に対し、こどもサポートネット事業の充実など、社会全体で支える仕組みを強化するとともに、周囲の目が行き届きにくい就学前の子育て世帯に対しては、切れ目のない相談、サポートが可能となるよう、見守り環境の整備を進める必要がある。
- ・子育てに関する様々な支援や相談窓口、交流の場の機能充実を図るとともに、これらに関する情報が、直接子育て世帯に分かりやすく、効果的に伝わるよう関係機関との連携やすみの情報報の活用など情報にアクセスしやすい方法を検討する必要がある。

【子どもたちの「生き抜く力」を育成に向けて】

- ・放課後等を活用した学習の場の提供や学習意欲の向上、学習習慣を身に付けるための支援など、児童、生徒の学力向上に向けた取組を充実させる必要がある。
- ・子どもたちが自分で未来を切り開いていけるよう、将来に向かって自ら挑戦する精神や課題を解決する力を身につけたり、学習目的を見つけたりとすることができる機会を提供していく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

【子どもが笑顔で育つ環境の実現に向けて】

- ・子育てケアプランファイル作成・交付や、2歳児の保護者アンケートを実施し、相談を希望する家庭や保護者アンケート未回答の家庭を訪問し、養育状況や困りごとを把握し支援メニューを提案しているものの、保護者等の同意が得られない場合がある。支援を要する児童等が取りこぼされることのないよう、学校など関係機関と連携し、保護者等へ支援メニューの周知を行うとともに、同意を得られない保護者に対しても柔軟に対応できるよう官民連携を促進する。

【子どもたちの「生き抜く力」の育成に向けて】

- ・児童、生徒の学力の向上に向けては、学習習慣の定着ならびに学習意欲の向上が必須であるが、とりわけ支援が必要な児童、生徒については学習支援につながるまでに時間を要することが多い。支援が必要な児童、生徒に対して、SSWや子育て支援室と連携し、学校教員等に支援内容の周知を図ることで、学習習慣のきっかけづくりを行う必要がある。
- ・さらに未来に向かって夢や目標のために挑戦する力を育むためのワークショップ等を開催したものの、十分な周知に至らなかったため参加者が少ない結果となった。しかし、参加者の起業への関心やワークショップの理解度は高いものであった。

めざす成果及び戦略 1-1 【子どもたちが笑顔で育つ環境の実現】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 【令和3～7年度の5年間】 ・区役所、学校等各関係機関と地域や民間の区内のこども支援に取り組み様々な主体の連携協働のもと、さまざまな子育て支援や相談に関する活動が展開されることで、未来の担い手であるすべての子どもが、誰一人取りこぼされることなく、支援が必要な場合に必要支援を受けられる状態。	戦略（中期的な取組の方向性） ・妊娠・出産期、乳幼児期、学齢期、青少年期の各ステージに応じて切れ目なく子育てをサポートするとともに、課題を抱える家庭、子どもへの支援などを行う。 ・また、子育ての悩みを皆で相談しあったり、子育てに関する有益な情報が確実に簡単に入手できる環境の整備を進める。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・令和7年度末までに、区民アンケートで子育てを現在している人（妊娠中を含む）のうち、「住之江区内で子育てについて相談ができる場があることを知っている」と回答する割合 60%以上 ・年間を通じて重大虐待事案が発生しない状態の継続	

中期評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	—
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	
	区民アンケート等で子育てを現在している人のうち「子育て支援室を知っている」もしくは「相談したことがある」と回答した割合	80.3%	B	A	
	重大な虐待事案	0	A		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない			
戦略の進捗状況	a	a：順調 b：順調でない			

具体的取組 1-1-1 【支援が必要な児童、生徒への取組】

計画	当年度の取組内容 ・学校等と連携し、支援が必要な児童を発見するとともに、児童や保護者の状況や悩みを傾聴し、地域による子ども支援の取組や、児童支援に取り組むNPOなど民間の取組を含めた利用可能な支援を提案し、児童や保護者のニーズに合わせて利用に向けたサポートを行う。	2決算額	— 円	3予算額	— 円	4予算額	— 円
	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・こどもサポートネットにおいて、区役所がアウトリーチできたケースのうち、支援につながった割合 75%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が20%未満であれば事業を再構築する。	前年度までの実績 【3年度】71.1% 【2年度】55.2% 【元年度】75.4%					

中期評価の振り返り	プロセス指標の達成状況	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)	

中期評価	当年度の取組実績 ・学校・保育所・幼稚園等と連携し、児童や保護者の状況や悩みを傾聴し、児童や保護者のニーズに合わせて必要なサポートを関係機関と連携し実施	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	—
	プロセス指標の達成状況 こどもサポートネットにおいて、区役所がアウトリーチできたケースのうち、支援につながった割合 96.3%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組1-1-2 【全就学前児童への切れ目のない見守り環境の整備】

		2決算額	7,298千円	3予算額	10,322千円	4予算額	10,322千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・乳幼児健診や、地域担当保健師・子育て支援室等による相談対応、保育所（園）・幼稚園等との連携、4歳児を対象とした訪問等を通じて、妊娠から就学に至るまでの間、切れ目なく子どもの状況を把握するとともに必要な支援を行う。 ・特に区独自の取組として、2歳児を養育する保護者に対し、養育状況や困りごと、支援希望等を問うアンケートを実施するとともに、希望する家庭やアンケート未回答の家庭を訪問し、養育状況や困りごとを把握し、支援メニューの提案を行う。					
	プロセス指標の達成状況	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成					
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					
	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
計画評価	当年度の実績	・妊産婦、乳幼児健診(3か月・1歳6か月・3歳)、2歳児子育てケアプラン、4歳児を対象とした訪問など、妊娠から就学まで切れ目なく子どもの見守りを行うとともに、地域担当の保健師・子育て支援室等による相談対応等を行い必要な支援を実施 ・アンケートを5、8、11、1月の4回に分けて発送し、アンケート送付後、訪問を希望する家庭やアンケート未回答の家庭を訪問し、養育状況や困りごとを把握し支援メニューを提案 ・妊娠から就学前での必要最低限の手続きや相談先などの情報を時系列にわかるよう「手続きケアプラン」を継続して実施					
	プロセス指標の達成状況	・2歳児を養育する保護者を対象としたアンケートの回答率 81.0% (実施数:688件 回答数:557件)					
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					
	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					

具体的取組1-1-3 【相談機能、情報発信の強化と交流の場の充実】

		2決算額	181千円	3予算額	257千円	4予算額	257千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・子ども・子育てプラザをはじめ区内の子育てに関わる各種機関と連携し、子育てマップ(年1回)や子育て情報紙「わいわい」(年12回)を発行するとともに、子育て層がアクセスしやすいよう、HPやSNS、デジタルマップなどICTを用いて、子育てに関する有益かつタイムリーな情報発信を推進する。 ・区役所子育て支援室において、保育士・保健師・家庭児童相談員による子育て相談を継続する。					
	プロセス指標の達成状況	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成					
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					
	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
計画評価	当年度の実績	・子育て情報紙「わいわい」(月1回)を発行するとともに子育てサロンの情報など区ホームページやSNSを通じて情報を発信 ・妊娠から就学までの子育てに関する情報や悩み相談の相談先を、区広報紙「さざんか」5月号に掲載 ・子育て層に対する情報発信として体調によらない子育てのポイントや子どもの権利に関する情報を区広報紙「さざんか」11月号に掲載。また、子育ての相談や児童虐待相談など、情報を適宜入手できるように二次元コードもあわせて掲載 ・「年齢別子育て情報(乳幼児健康診査・予防接種)」を区ホームページに、二次元コードを区広報紙「さざんか」12月号に掲載					
	プロセス指標の達成状況	①: 子育て世帯保護者アンケートで「区が発信する子どもや子育てに関する情報を入手したことがある」と答える割合 91.3% ②: 区民アンケートで「相談機関として子育て支援室を知っている」と答える割合 42.0%					
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					
	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					

めざす成果及び戦略 1-2 【子どもたちの「生き抜く力」の育成】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	【令和3～7年度の5年間】 ・社会が多様化する中で、子どもたちが「生き抜く力」を身につけ、自分らしい未来を切り拓けるよう学ぶことができている状態。 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・令和7年度末までに、全国学力・学習状況調査等のアンケート結果における区内中学生への「将来の夢や目標」に関する質問に対する肯定的な回答の割合 70%以上		・地域や民間との連携のもと、誰もが安心して勉強ができる環境の充実を図り、学習を楽しむ体験をすることで、学習意欲が向上するよう促す。 ・また、知識だけでなく、学ぶ意欲や、課題を見つけ解決していく力を養い、将来の夢や目標に向かってチャレンジする気持ちとやり抜く力を育てる。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別 全体
	令和4年度区内中学生への「将来の夢や目標」に関する質問に対する肯定的な回答の割合 63.4%		63.3%	A
				A
		A: 順調 B: 順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
戦略の進捗状況	a	a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組 1-2-1 【児童、生徒の学力向上に向けた取組】

		2決算額	5,206千円	3予算額	8,378千円	4予算額	10,022千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・子どもサポートネット事業の対象となる児童・生徒を中心に、学校やスクールソーシャルワーカー、福祉関係者等と連携し、それぞれの理解度や特性に合わせた少人数体制での学習支援を行う。小学校施設、中学生向け拠点等で実施する。 ・放課後の学校施設を利用し、大阪市塾代助成事業を活用した民間の塾事業者との連携による課外授業を週2回程度行う。加賀屋塾（加賀屋中学校）、南港塾（南港南中学校）、真住塾（真住中学校）の計3か所で年間計270回程度実施する。		・対象児童・生徒に対するアンケート調査において、「この事業に参加してよかった」という問いに対し、肯定的な回答の割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が40%未満であれば事業を再構築する。				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性		①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	・小学校6校、中学校1校にて、学習支援を実施 ・加賀屋塾・南港塾・真住塾を開設し、学習環境の場を設定。年間275回		-				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
対象児童・生徒に対するアンケート調査において、「この事業に参加してよかった」という問いに対し、肯定的な回答の割合 97%		① (i)					
①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		-					
戦略に対する取組の有効性		ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組1-2-2

【チャレンジ精神や課題解決力を身につけたり、学習の目的を見つけたりする機会づくり】

		2 決算額	－ 円	3 予算額	－ 円	4 予算額	－ 円
計 画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <p>・キャリア教育の一環として、小中学生を対象に、チャレンジ精神、創造性、探究心等の「起業家精神」や、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の「起業家的資質・能力」の育成をめざす起業家教育を題材としたワークショップ等を開催する。</p> <p>・学校生活や普段の生活においても、自分の夢や目標を描き、自分の考えを持つとともに相手の意見を聞きながら、未来に向かって挑戦する力を育む。</p> <p>【個人参加プログラム】区内中学生・小学校高学年計300名を対象に、オンライン講座を中心に実施する。</p>					
	前年度までの実績	<p>【3年度】</p> <p>キャリア教育の一環として、次のプログラムを実施</p> <p>・【授業プログラム】11月に区内小学校2校6年生計79名を対象に実施</p> <p>・取組を広く周知するため、住之江区住みます芸人の参加も得て、事業についてのわかりやすい動画をホームページ等に掲載</p> <p>・【個人参加プログラム】8月に区内2会場で小学校6年生と中学校1～2年生計18名を対象に実施</p>					
中 間 報 告 の 進 捗	プロセス指標の達成状況	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す …プロセス指標未設定(未測定)</p>					
自 己 評 価	当年度の取組実績	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>キャリア教育の一環として、プログラムを実施</p> <p>・夏開催：7～9月5回連続講座を実施 延べ19名参加</p> <p>・秋開催：10～11月単発講座を7回実施 延べ44名参加</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>ワークショップ等に参加する児童・生徒対象のアンケートにおいて、起業への関心やワークショップの理解度について肯定的な回答の割合 86% ① (i)</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す …プロセス指標未設定(未測定)</p>					

めざす成果及び戦略 2-1 【地域の活力と魅力の向上】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	【令和3～7年度の5年間】 ・個人、地域団体、NPO、企業等による活発で多様な活動を源泉にしたまちづくりにより、地域の活気と魅力が向上している状態。 ・地域特性に即した地域課題（防災、防犯など安心・安全なまちづくり）にかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどの解決に向けた取組が自律的に進められている状態。		・各地域での祭りや近所の清掃、住民同士の交流や助け合いなど、様々な活動が将来にわたって自律的により活発なものとして発展していきけるよう、環境づくりを進める。 ・また、自分の暮らす地域への誇りや愛着は、充実した日常生活を送るうえで重要であり、こうした機運を高めていくための環境や仕組みづくりを進める。 ・地域活動協議会のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細かな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。	
中間振り返り	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	・令和7年度末までに、地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合 90%以上		前年度 個別 全体 地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合 89.8% 89.4% A A	
戦略の進捗状況	戦略に対する取組の有効性		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す		A:順調 B:順調でない a:順調 b:順調でない	

具体的取組 2-1-1 【多様な主体による地域の活気と魅力づくり】

計画	2決算額 57,773千円 3予算額 59,115千円 4予算額 59,602千円		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	当年度の取組内容 ・地域の内外の人材、資金、地域情報等の地域資源を活用しながら、次世代の担い手確保等の地域課題を解決するために、中間支援組織と連携しながら 企業・NPO・学校・地域交流会を開催する。 ・また、交流会でできたつながりをもとに地域課題の解決に向けた協働取組の支援を行う。		・地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動の実施 12件以上 【撤退・再構築基準】 ・上記実績が8件以下であれば事業を再構築する。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		前年度までの実績 【3年度】 ・地域資源を活用した地域活動(スマホ教室・新北島見守り活動・すみのえアート・ビート等)の実施 14件 ・地域活動応援サークルイベント部会会議 13回 ・地域活動応援サークルイベント(オンラインラジオ体操) 17回 【2年度】 ・地域資源を活用した地域活動の実施 1件 ・地域活動応援サークルイベント部会会議 12回 ・地域活動応援サークル イベント 1回 【元年度】 ・地域資源を活用した地域活動の実施 10件 ・地域のふれあい喫茶に学生がボランティアとして参加 4地域 ・担い手拡大ワーキングを開催 10回 ・防災ママ学習会 1地域	
戦略の進捗状況	戦略に対する取組の有効性		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)		当年度の取組実績 ・地元企業、NPOの人材、資金、地域情報等の地域資源を活用した地域活動(地域見守り活動、地域健康ウォーキング、地域活動5周年記念ミーティング、企業・NPO・学校・地域交流会の開催(11月・3月)等)の実施 13件 ・地域活動応援サークルイベント部会会議の開催 13回 ・地域活動応援サークルイベント(オンラインラジオ体操)の開催 2524件 プロセス指標の達成状況 取組実績どおり ① (i) ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
戦略の進捗状況	戦略に対する取組の有効性		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)		① (i) ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	

具体的取組 2-1-2 【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進】

		2 決算額	- 円	3 予算額	- 円	4 予算額	- 円
計画	当年度の取組内容	<p>・各地域活動協議会がホームページの開設等ICTを活用した取組を支援する。</p> <p>・地域活動協議会が実施するイベント等で、地域活動協議会の活動紹介チラシを配布する。</p> <p>・地域活動協議会の意義や求められる準行政的機能や総意形成機能について、地域活動協議会の役員や構成団体、地域住民の理解が深まるよう地域活動協議会の会長や運営委員会などにおいて、積極的に発信する。</p> <p>※予算・決算額は【2-1-1】にて一括計上</p> <p>※準行政的機能とは・・・ 行政が地域に委ねるべき分野で市民活動団体の活動対象とならない分野をカバーすること</p> <p>※総意形成機能とは・・・ 校区等地域における将来像を共有し、住民の様々な意見の調整・取りまとめを行う機能</p>					
	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	<p>①地域活動協議会の構成団体が自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 90%以上</p> <p>②地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている準行政的機能を認識している割合 85%以上</p> <p>③地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている総意形成機能を認識している割合 87%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>①上記割合が70%未満であれば事業を再構築する。</p> <p>②③上記割合が60%未満であれば事業を再構築する。</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
評価	当年度実績	<p>・会計事務説明会を開催し、地域活動協議会の意義や準行政的機能、総意形成機能について説明(全地域)</p> <p>・地域活動協議会が自らもICTを活用し、積極的な情報発信が行えるよう動画作成講座を開催(3回連続講座×1クール)</p> <p>・地域活動協議会の広報担当者実務者交流会「広報編」の開催(11月)</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>①地域活動協議会の構成団体が自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 87.8%</p> <p>②地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている準行政的機能を認識している割合 64.6%</p> <p>③地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に求められている総意形成機能を認識している割合 65.4%</p>					
評価	プロセス指標の達成状況	<p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
		課題と改善策		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		課題		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		改善策		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			

具体的取組 2-1-3 【地域の魅力の共有と発信】

		2 決算額	- 円	3 予算額	4,473千円	4 予算額	4,293千円
計画	当年度の取組内容	<p>・住之江区内の関連団体等が情報発信者となって、住之江区の歴史・文化や地域活動、企業活動の様子、区の取組などを動画、写真、記事等で発信することができるポータルサイト「すみのえ情報局」を運営し、その活用を促進する。</p> <p>・住之江区内の関連団体等への動画制作支援等を行う。</p>					
	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	<p>・ポータルサイトを活用して情報発信を行った件数 50件以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>・上記実施件数が20件未満の場合は、事業を再構築する。</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
評価	当年度実績	<p>・登録団体数55団体</p> <p>・情報発信を行った件数 427件</p> <p>・登録団体紹介コーナーの設置(7月1日～9月30日)</p> <p>・広報紙7月号「生涯学習特集」にてすみのえ情報局の活用方法を紹介</p> <p>・広報紙不定期連載「あなたの身近にSDGs」にて、すみのえ情報局とSDGsの結びつきを周知</p> <p>・地域団体等を対象とした「すみのえ動画講座」の開催3回連続講座×1クール 延べ30人参加</p> <p>・スマホの使い方を習得支援 3地域</p> <p>・投稿簡単マニュアルや説明動画の作成</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
評価	プロセス指標の達成状況	<p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
		課題と改善策		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		課題		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
		改善策		※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			

めざす成果及び戦略 2-2 【見え守りあう地域づくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定> 【令和3～7年度の5年間】 ・地域の誰もがちょっとした声掛けなどを通じて地域の気になる方を温かく見守りあうとともに、支援を必要とする人の抱える課題に対して、さまざまな分野の関係機関が連携協力し、より課題に即した支援を提案出来るようになっている状態。		戦略（中期的な取組の方向性） ・複雑化・多様化する福祉課題に対して、福祉関連施策を着実に推進するとともに、多様な関係機関のネットワークの充実を図り、区民に寄り添い、誰もが安心して生活が送れるまちづくりを進める。 ・また、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく安心した生活が送れるよう、地域の中で互いに支え合いながら、自分らしく活躍できるコミュニティづくりを進める。		
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・令和7年度末までに、区民アンケートで「生活している中で地域との「つながり」を感じることがありますか」に対して、肯定的な回答をする割合60%以上				
中期評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 あったかネットコーディネーターによる相談支援及び地域、学校向けの見守りあったかネットサポーター養成講座の開催並びに区広報紙を用いた地域福祉活動の啓発等の取り組みを進めてきたところであるが、コロナ禍で地域活動が停滞し続けており、結果としてつながりを感じる層の増加には至らない状況になっている。		
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
	区民アンケートで「生活している中で地域との「つながり」を感じることがありますか」に対して肯定的な回答をする割合	40.9%	43.2%	A	A
戦略の進捗状況	a	A: 順調 B: 順調でない a: 順調 b: 順調でない			

具体的取組 2-2-1 【安心を提供する福祉施策の推進】

計画	当年度の取組内容		2決算額	-円	3予算額	-円	4予算額	-円
	<ul style="list-style-type: none"> 区役所の保健福祉・生活支援分野を担当する職員が、区民の困りごとに対してより的確な支援につなげるよう、福祉・健康・医療・暮らしの支援などの各種公的制度のほか、地域やNPO等の実施する支援についても情報共有し、相談対応力の向上を図る。 個別の支援にあたっては、関係機関の情報共有・連携のため、関係法令に基づく会議のほか、総合的な支援調整の場（つながる場）及び生困シェア会議などの積極的な活用を進める。 		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・区役所の保健福祉・生活支援分野を担当する職員を対象としたアンケートで「福祉施策に関する課題解決に向けて適切な支援につなげることを可能とする感度が上がったと思う」と回答する割合 60%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が20%未満であれば事業を再構築する。					
中期振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		前年度までの実績 【3年度】 ・「住之江区事実確認シート」の作成 ・eラーニングによる「気づき」「感度の向上」にむけた研修の実施 1回 ・総合的な支援調整の場（つながる場）の開催 1回 ・住之江区区合同会議の設置（7月） ・住之江区区合同会議の開催 5回					
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		当年度の取組実績 ・区民の困りごとをより適正な支援につなぐことができるよう、区役所職員の「気づき」「感度の向上」を図るための「住之江区事実確認シート」の供用を開始。 ・eラーニングによる「気づき」「感度の向上」に関する職員研修を2回実施。 ・総合的な支援調整の場（つながる場）を1回開催。					
戦略に対する取組の有効性		ア	プロセス指標の達成状況 区役所の保健福祉・生活支援分野を担当する職員を対象としたアンケートで「福祉施策に関する課題解決に向けて適切な支援につなげることを可能とする感度が上がったと思う」と回答する割合 89.9%					

具体的取組 2-2-2 【地域福祉の充実】

2.決算額 | 12,167千円 | 3.予算額 | 12,167千円 | 4.予算額 | 12,165千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした声掛けや見守りといった地域福祉の取組への参加を促進できるよう、住之江区地域福祉計画に基づく各地域の取組や課題を把握し、広報紙で紹介するなど啓発を行う。 ・各地域や企業、学校等において、高齢者、障がい者、児童などに対する地域の見守り活動の担い手である「見守りあったかネットサポーター」を養成する。 ・区社会福祉協議会と連携し、要援護者名簿の活用や新しい生活様式を踏まえた見守り等、地域福祉活動に関する先進的な取組を各地域と共有するとともに、地域福祉活動や研修等でのICTの活用について、地域、関係機関とともに検討する。 	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民アンケートで「地域福祉活動について関心がある・ある程度関心がある」と回答する割合 50%以上 ・区民アンケートで「地域福祉活動に参加している・参加したことがある」と回答する割合 20%以上 <p>（※地域福祉活動の例：高齢者食事サービス、ふれあい喫茶などのサロン活動、日常的な訪問による見守り活動 など）</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域福祉活動について関心がある・ある程度関心がある」の割合が20%未満であれば事業を再構築する。
	<p>前年度までの実績</p> <p>【3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター(14名) 相談件数2,738件(延べ) ・地域、学校向けの見守りあったかネットサポーター養成講座 12回 参加548人 ・福祉会館でのワクチン接種予約支援件数 253件 ・ICT機器(タブレット等)を活用した地域との連携会議開催 6回 ・区広報紙を用いた地域福祉活動の啓発 7回 <p>【2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター相談件数 2,230件(延べ人数) ・見守りあったかネットサポーター養成講座 3回 参加148人 （あったかネットリーダー・コーディネーター・サポーター合同研修を含む） ・あったかネットコーディネーターによる、ICT機器(タブレット)とオンライン会議ツール(ZOOM等)の利用に関する実技研修を実施 2回 参加35人 ・区広報紙を用いた地域福祉活動、要援護者名簿の啓発 1回 <p>【元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域向けの見守りあったかネットサポーター養成講座 12回 参加423人 ・企業向けの見守りあったかネットサポーター養成講座 6回 220人 ・同リーダー・コーディネーター研修 2回、参加33人 ・コーディネーター相談件数1,841件(延べ) 	
中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	
自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター(14名) 相談件数2,566件(延べ) ・見守りあったかネットサポーター養成講座 (地域向け)15回 参加307人 (学校向け)7回(4校)参加582人 (企業等向け)2回 参加88人 ・見守りあったかネットコーディネーター・リーダー研修の開催 参加43人 ・見守り活動見本市の開催(6月18日) 参加91人 ・区広報紙を用いた地域福祉活動の啓発 7回 	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民アンケートで「地域福祉活動について関心がある・ある程度関心がある」と回答する割合 61.4% ・区民アンケートで「地域福祉活動に参加している・参加したことがある」と回答する割合 27.5% <p>① (i)</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

・大規模地震や津波、水害等の自然災害に対し、自助・近助・共助・公助による備えのできた防災力の高いまちを目指す。また、ひったくりや路上強盗、特殊詐欺等、犯罪のない安心して暮らせるまちをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・津波による死者・負傷者・重傷者数（H26年1月大阪府南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会より）
 早期避難率が低い場合 13,376名 避難の迅速化ができた場合 0名

・区民アンケートで「自宅の浸水想定を知っている」と回答した割合



・区民アンケートで「お住いの地区では、共助による備えが来ていると思う」と回答した割合



・区内街頭犯罪発生件数



・府内特殊詐欺認知件数



・区内特殊詐欺認知件数



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・災害時に被害をできる限り軽減するには、区民が災害の種類に応じた被害想定を把握する必要があるが、こうした情報が十分に行き届いているとは言えない状況にある。
 ・大規模災害においては地域の総合的な力により災害に備える必要があるが、共助に対する意識は十分ではなく、また地域防災の中心を担う地域防災リーダーの高齢化が進んでいる。
 ・区内の街頭犯罪発生件数は年々減少しており、警察、区役所、区民が取り組む防犯対策が一定の効果を得ている。しかしながら、特殊詐欺の認知件数は、減少傾向にあるものの、未だ高水準で推移している。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【災害に負けないまちづくりに向けて】

・阪神・淡路大震災において自力脱出困難者の大多数は家族・近隣住民に救出された経験を踏まえ、「自助」「近助」に対する一層の意識の向上が必要である。
 ・避難カードやeラーニングなど、効果的な手法を積極的に活用しながら、自助・近助・共助による防災力の向上と多数の人材育成により一層取り組む必要がある。
 ・避難所の拡充と避難所での物資の充実、災害に関する情報や避難所の所在を分かりやすく示す表示板整備など、減災のための環境を一層整備する必要がある。

【犯罪のない安心して暮らせる環境の実現に向けて】

・各種キャンペーンや出前講座などを通じ、特殊詐欺などの巧妙化する犯罪手口に関する情報の普及や注意喚起など、防犯意識向上に向けた意識啓発を、より一層進める必要がある。
 ・青色防犯パトロールカーの巡回やキャンペーン活動、防犯カメラの適切な維持など、街頭犯罪防止のための環境整備に引き続き取り組む必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

中学生や防災リーダーを対象に研修や訓練を実施し、防災人材として育成。昨年度より実施校2校を増やし、より多くの人材育成ができた。また、未実施の地域でも、地域団体が消防署・区と連携し、人材育成を実施しており、裾野は広がっている。防災パートナー登録勧誘を積極的に行い、ペット防災に関して協会のパートナー登録を得ることが出来た。今後、セミナー等の開催へつなげていく。特殊詐欺被害防止や街頭犯罪抑止のため、引き続き警察と連携し、広報紙、動画、SNS等様々な媒体により、啓発を行っていく。

計画

評価

めざす成果及び戦略 3-1 【災害に負けないまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）		
	【令和3~7年度の5年間】 ・各家庭での災害への備えに対する「自助」、自主防災組織より身近で隣近所で助け合う「近助」、地域で助け合い被害拡大を防ぐ「共助」、区民の防災意識向上の啓発を行う「公助」で、総合的に災害に備えることができている状態。 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・令和7年度末までに、区民アンケートで「お住いの地域や家庭で災害に対する備えができている」と回答する割合 60%以上		・災害への知識を深め、十分に備えることで一人ひとりが災害に対して当然のように対応できる、自助・近助・共助による防災力を高める。 ・また、災害時に身の安全が確保できる避難所の拡充をはかるとともに、一人ひとりが避難行動を円滑に行えるよう、わかりやすく災害情報を得られるまちづくりを進める。		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
	家庭で災害に対する備えができていると回答した割合 76.9%		80.0%	B	A
	お住いの地域で災害に対する備えができていると回答した割合 38.0%		24.8%	A	A
			A:順調 B:順調でない		
戦略の進捗状況	a	a:順調 b:順調でない			
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須		

具体的取組 3-1-1 【自助・近助・共助による防災力の向上と圧倒的多数の人材育成】

		2決算額	5,928千円	3予算額	3,703千円	4予算額	5,261千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・防災意識の向上に向け、町会や自主防災組織をはじめ、学校や民間企業等の幅広いコミュニティ層に対して、研修や出前講座などの機会を捉え、ICTを活用した防災人材育成プログラムを提供する。 ・地域防災力向上に向け、防災アドバイザーを活用した地域防災訓練等の支援、地域防災計画の作成支援を行う。 ・ハザードマップや避難カードの活用方法について啓発し、自らが作成した後、近所や地域の方へ避難カードやマイタイムラインの作成を促せるような「近助」の防災力が向上する取組を行う。 ・コロナ禍においては避難所の受け入れ人数の大幅な減少が見込まれるため、避難カードの活用方法等の啓発に合わせ、「分散避難」の啓発を行う。		・区民アンケートで「自宅の浸水想定を知っている」と回答する割合 60%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 【3年度】 ・防災訓練 4回 ・防災講座 2回 ※コロナ禍のため防災訓練の代わりに一部地域で実施 ・広報紙（毎月連載、特集2回） ・防災人材育成（キックオフイベント1回、導入編講座3中学校、1小学校、2法人において実施・計1,353名受講） 【2年度】 ・防災訓練（6回） ・広報紙・ホームページ（各4回） 【元年度】 ・防災訓練（15回）、防災講演会（2回）、広報紙・ホームページ（各5回）、区民まつり（1回）				
	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
中間振り返り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	・地域防災訓練 13地域(15回) ・防災人材育成 5中学校、6小学校、1保育園 ・防災出前講座 10回、防災リーダー研修 3回 ・広報紙 特集2回、区防災マップを全戸配布		-				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
区民アンケートで「自宅の浸水想定を知っている」と回答する割合 60%		① (i)					
①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		-					
戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組3-1-2 【減災のための環境整備】

		2決算額	523千円	3予算額	1,225千円	4予算額	1,274千円
計画	当年度取組内容	・津波避難ビル等の避難場所や備蓄物資の充実を図るとともに、すみの情報局などを活用し、地域貢献を行う意思を有する企業・事業所、NPO・ボランティア団体等に災害対策に必要な協力を行っていただく「防災パートナー」の増加に向けて啓発し、依頼を行う。 ・津波避難ビルの表示板未設置箇所への増設及び災害時避難所の表示板及び誘導表示板の変更を行う。					
	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	・防災パートナーの新規登録件数 2件以上 【撤退・再構築基準】 ・上記件数が0件であれば事業を再構築する。					
計画	前年度までの実績	【3年度】 ・防災パートナー新規登録件数 4件 ・津波避難ビル表示板設置 4か所 ・南港地域の特性に応じた備蓄品を追加 紙おむつ264枚 生理用品720枚 パン缶720缶 【2年度】 ・南港4地域に災害備蓄用パン、紙おむつ等を配備 ・津波避難ビルの表示板設置 【元年度】 ・南港4地域に災害備蓄用パン720缶、大人用紙おむつ420枚、子ども用紙おむつ936枚、生理用品4,320枚 配備 ・津波避難ビルの表示板設置 5か所					
	プロセス指標の達成状況	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成					
計画	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度取組実績	・防災パートナーの新規登録件数 2件 ・災害時避難所誘導表示板の設置 5か所					
	プロセス指標の達成状況	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 3-2 【犯罪のない安心して暮らせる環境の実現】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	【令和3~7年度の5年間】 ・地域や関係機関と連携し、一体となって街頭犯罪の抑止並びに特殊詐欺の被害防止に取り組むことにより、区民の日常生活での安全を確保できている状態					
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)	・令和7年度末までに、区民アンケートで「安全・安心に暮らせるまちである」と回答する割合 80%以上					
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す					
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	区民アンケートで「安全・安心に暮らせるまちである」と回答する割合 82.6%		
自己評価	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない					

具体的取組3-2-1 【防犯意識の向上に向けた啓発】

		2決算額	- 円	3予算額	- 円	4予算額	- 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・区民アンケートで「区の取組は区民の防犯意識の向上に役立っていると思う」と回答する割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 【3年度】 ・特殊詐欺被害防止キャンペーン 3回 ・防犯出前講座実施 2回 【2年度】 ・特殊詐欺被害防止キャンペーン及び防犯出前講座について、コロナ禍による感染症拡大防止のため未実施 【元年度】 ・特殊詐欺被害防止キャンペーン実施 8回 ・防犯出前講座実施 47回					
	・特殊詐欺に狙われやすい高齢者への対策として、金融機関を訪れた高齢者に特殊詐欺被害防止の呼びかけと、啓発内容を掲載したチラシ等を配付し、特殊詐欺被害を未然に防止するための取組を行う。 ・防犯意識の向上に向け、安まちメールの情報を元に、防犯出前講座等の機会を捉え、大阪府内で発生した特殊詐欺の手口や住之江区内で発生した犯罪事案の注意喚起を行う。合わせて特殊詐欺についてのクイズを行い、参加者の理解を深める取組を行う。						
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 区の取組みが、区民の目に触れる機会・頻度が少ない、又は方法論として効果を感じられていないことが考えられる。					
	・特殊詐欺被害防止キャンペーン実施 10回 ・防犯出前講座実施 26回 ・すみのえ情報局へ特殊詐欺被害防止の動画掲載 ・特殊詐欺被害防止録音機の貸与						
	プロセス指標の達成状況	区民アンケートで「区の取組は区民の防犯意識の向上に役立っていると思う」と回答する割合 68.4% ② (i) 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 様々な世代の区民に知ってもらう機会を充実させる。					
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組3-2-2 【街頭犯罪抑止のための環境整備】

		2決算額	741千円	3予算額	995千円	4予算額	995千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・区民アンケートで「区の取組は街頭犯罪抑止に効果があると思う」と回答する割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が40%未満であれば、事業を再構築する。 前年度までの実績 【3年度】 ・青色防犯パトロール 午前午後合計 4コース ・犯罪発生箇所が反映された防犯マップを基にした即応効果的な巡回パトロールの実施 ・ひたくり防止カバー取付キャンペーン実施 8回 【2年度】 ・青色防犯パトロール 午前午後合計 4コース実施 ・ひたくり防止カバー取付キャンペーン実施 8回 【元年度】 ・青色防犯パトロール 午前午後合計 4コース実施 ・ひたくり防止カバー取付キャンペーン実施 26回					
	・青色防犯パトロールカーなどにより、安まちメールで配信のあった情報をもとに、巡回強化ポイントを設定し、地域の巡回パトロールを実施する。 ・区役所や商店街などで、ひたくり防止カバー取付キャンペーンを実施する。 ・区役所管理の防犯カメラについて、巡回時の目視点検や業者委託点検により、適正な運用を確実に進行。						
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 区の取組みが、区民の目に触れる機会・頻度が少ない、又は方法論として効果を感じられていないことが考えられる。					
	・犯罪発生箇所が反映された防犯マップを基にした即応効果的な巡回パトロールの実施 ・ひたくり防止カバー取付キャンペーン実施 16回						
	プロセス指標の達成状況	区民アンケートで「区の取組は街頭犯罪抑止に効果があると思う」と回答する割合 68.9% ② (i) 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 様々な世代の区民に知ってもらう機会を充実させる。					
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)					

取組項目1 【業務改革の推進(改革の柱3-1(1))】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>【令和2～5年度までの4年間】 (趣旨・目的) ・庁内事務において、優先的に見直すべき業務プロセスを選定し、具体的な業務改革計画を示したうえで、全市が一体となって簡素化・効率化を進め、生産性の向上を図る。</p> <p>(取組の概要) ・多様な技術の活用等による事務の簡素化・効率化 他区の取組事例等を参考にしながら、多様な技術の活用等による事務の簡素化・効率化を進める。</p> <p>(目標) ・2年度 各年度の目標を含む実施計画の策定 ・3年度以降 上記実施計画に定めた目標に順次取り組む</p>	<p>(取組の内容) ・多様な技術の活用等による事務の簡素化・効率化 該当する業務を抽出し、多様な技術の活用等による事務の簡素化・効率化に向けた取組を進める。</p> <p>(目標) ・事務の簡素化・効率化を行った業務 1件以上</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	<p>行政オンラインシステムを活用し、引越し、戸籍、行政書士相談、国民健康保険・保健福祉・介護保険・生活保護・健康支援に関する手続きの来庁前予約を開始し、事務の効率化を進めるとともに市民の利便性の向上を図った。</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p style="text-align: center;">①:目標達成 ②:目標未達成</p>	—

取組項目2 【国民健康保険料収納率の向上(改革の柱3-3(4))】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>【令和2～5年度までの4年間】 (趣旨・目的) ・被保険者間の負担の公平性と歳入の確保</p> <p>(取組の概要) ・国民健康保険財政は非常に厳しい状況にあり、資格の適正化や納付勧奨、滞納者に対する滞納処分を厳格に行い、国民健康保険料の収納率を向上させることで、未収額の圧縮を図る。</p> <p>(目標) ・収納率 全市収納率の当年度の平均を上回る</p>	<p>(取組の内容) ・確実な納付を図るため新規加入者へ口座振替勧奨を行う。 ・早期の未納回収を図るため納付督促を行う。 ・適正な滞納処分を図るため財産調査を行う。</p> <p>(目標) ・早期未納者への区独自の納付勧奨(6回)</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	<p>(取組実績) ・収納率 住之江区:90.03%(令和5年3月末時点) 大阪市 :88.30%(令和5年3月末時点) ・財産調査:2,507件(令和5年3月末時点) ・口座振替登録加入率52.91%(令和5年3月末時点 昨年度より0.78%増) ・他保険加入調査:624件(令和5年3月末時点) (目標の達成状況) ・早期未納者への納付勧奨:8回(令和5年3月末時点)</p> <p style="text-align: right;">①</p> <p style="text-align: center;">①:目標達成 ②:目標未達成</p>	—

取組項目3 【次代を担う職員の育成(改革の柱5-1)】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>【令和2～5年度までの4年間】 (趣旨・目的) ・5S、標準化、改善、問題解決の手法を用いたPDCAサイクルの徹底や新たなチャレンジに取り組み、組織の生産性を向上させ、市民サービスの向上を図るとともに、複雑・多様化する行政課題にも対応できる専門性や行動力のある職員を育成する。</p> <p>(取組の概要) ①職員による改善、問題解決やあらたなチャレンジを促す仕組みの運用 ・職員が自主的・主体的に業務改善や問題解決に取り組み、様々な課題に積極的にチャレンジする組織風土を醸成するための仕組みを運用する。 ②職員の専門性の向上 ・各分野の職員が必要とする専門性の向上を図るため、職員の能力開発やキャリア形成に向け研修などに取り組む。</p> <p>(目標) ・5年度「困難な問題にも積極的にチャレンジし、自己成長につなげたい」に、「思う」と回答した職員の割合 10%以上</p>	<p>(取組の内容) ①職員による改善、問題解決やあらたなチャレンジを促す仕組みの運用 ・様々な課題に積極的にチャレンジする組織風土を醸成するため、若手職員が中心となって業務改善や問題解決に向けた企画立案、予算要求等の業務の流れを経験する仕組みとして「職場改善プロジェクト」のプログラムを実施するとともに、庁内報を活用し取組内容を全職員に周知する。 ②職員の専門性の向上 ・各分野の職員が必要とする専門性の向上を図るため、所属内勉強会を実施する。</p> <p>(目標) ①職場改善PTの取組を実施 庁内報での取組内容の周知 年4回以上実施 ②所属内勉強会 年1回以上実施</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	<p>①今年度より、企画・立案を学ぶ人材育成研修の一環と位置付け、採用4年目までの職員を対象に「職場改善検討チーム」として活動し、庁舎案内表示、自転車置き場の環境等に関する改善提案を行った。また、庁内報にて、活動内容の周知を4回実施した。 ②あいサポート研修 1回実施</p> <p>①</p> <p>「困難な問題にも積極的にチャレンジし、自己成長につなげたい」に、「思う」と回答した職員の割合 33.7%</p> <p>①:目標達成 ②:目標未達成</p>	—

取組項目4 【働き方改革の推進(改革の柱6-1)】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	<p>【令和2～5年度までの4年間】 (趣旨・目的) ・ワーク・ライフ・バランスを推進し、多様化する職員のニーズを踏まえ、柔軟な働き方の実現や働きやすい職場環境を整備することで、職員一人ひとりの仕事と生活の調和を図る。</p> <p>(取組の概要) ①柔軟な働き方の推進 ・職員の仕事と生活の両立に向けたテレワーク制度の利用の推進に加え、職員のニーズに合わせた多様な勤務形態の環境づくりの一環として時差出勤等の各種制度の利用を促進し、時間外労働の削減にもつなげる。 ②コミュニケーション活性化・ムダ取りのためのオフィス改革 ・職員が効率的に業務を進めることができるようフリーアドレス化・ペーパーレス会議を推進する。</p> <p>(目標) ①5年度テレワークの利用回数 150回以上 働き方にかかる各種制度を利用しやすい職場であると感じる職員の割合 20%以上 ②5年度効率的に業務を進めることができたと感じる職員 50%以上</p>	<p>(取組の内容) ①柔軟な働き方の推進 ・テレワーク制度の利用促進に向け、制度を周知するとともに、利用状況をOutlookに反映することで職員が利用しやすい環境を整備する。 ・時差出勤等の各種制度の利用促進に向け制度を周知する。 ②コミュニケーション活性化・ムダ取りのためのオフィス改革 ・フリーアドレス化を推進するとともに、資料をネットワークで共有して閲覧するなど庁内会議をはじめとしたペーパーレス会議を推進する。</p> <p>(目標) ①テレワーク利用回数 150回以上 働き方にかかる各種制度を利用しやすい職場であると感じる職員の割合 10%以上 ②フリーアドレス化等により多様な職員とコミュニケーションが取りやすくなったと感じる職員の割合 30%以上</p>

中間振り返り	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	<p>①テレワーク利用回数 188回 働き方にかかる各種制度を利用しやすい職場であると感じる職員の割合 37.4%</p> <p>②フリーアドレス化等により多様な職員とコミュニケーションが取りやすくなったと感じる職員の割合 31.1%</p> <p>①</p> <p>①:目標達成 ②:目標未達成</p>	—